

# 障がい者スポーツ 「ボッチャ」を知ろう。



ボッチャというスポーツを知っていますか？

ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、

転がしたりして、いかに近づけるかを競うスポーツです。

パラリンピックの正式種目であるボッチャ。今回は、その魅力を探るために、

障がい者スポーツの普及や指導に携わり、理学療法士として活躍するお二人に取材しました！



愛知県青い鳥  
医療療育センター  
リハビリテーション部  
理学療法士  
**北村 麻衣子氏**

「毎日、楽しく！」をモットーに肢体不自由児や発達障害がゆっくりなお子さん等のリハビリに携わる。あいちボッチャ協会にも所属し、ボッチャに対して熱い想いを持っている。



学校法人 佑愛学園  
愛知医療学院短期大学  
リハビリテーション学科  
理学療法専攻  
**加藤 真弓氏**

学生の指導は勿論、介護予防分野に長く携わり、清須市内の多様な場面でシニアの元気をサポート。障がい者スポーツにも関わる。

**まずはボッチャの見どころや特徴を教えてください！**

**北村** ルールはシンプルですが、いざプレイを始めるのと勝負は頭脳戦。新たな展開を繰り返しながらも、終盤で「大逆転」が起きることも珍しくありません。常に「最後の一球まで結果がわからない」という点が、見る側を楽しませるのです。

**加藤** 白熱した試合の展開に、静かだった会場が一気にざわめくこともあるんですよ。

**理学療法の分野から見たボッチャの特徴は…？**

**北村** ボッチャは、もともと重度の脳性麻痺などの障がいのある方のために考案されました。また、最重度の障がいの人もプレイできるスポーツでもあります。

**加藤** 障がいといっても程度はそれぞれなので、肩や

腕がどの程度動かかなどにより、上投げか下投げかといった投げ方のスタイルも変わってきます。自分の手で打球が難しい人は「ランプ」や「リリーサー」というアイテムを使う場合もあります。

**北村** スポーツとして本格的に勝負に向かうもよし、余暇活動として気軽に取り組みもよし。幅広い取り組み方ができることも魅力のひとつですね。

**加藤** その人その人に合った体の使い方に参加ができ、喜んだりできること、また、試合の中でメンバー同士が褒め合ったりできることも「やりがい」といって点から見ると重要だと思います。

**「ボッチャ」への今後の期待を教えてください！**

**北村** 年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめる

スポーツなので、今後ますます注目されると良いですね。愛知県はボッチャの強豪県としても有名なんですよ。障がい者や高齢者の社会参加につながるので、「子ども対高齢者」や家族対抗などで実施しても盛り上がると思います。自治会の運動会や各地域の集まりなど、様々な所で気軽に楽しんでほしいですね。

**加藤** 競技として参加されるのであれば、基本ルールは必須となりますが、余暇活動として取り組む場合は、参加者に合わせたルールにすることもありませう。今後ボッチャが地域の皆さんに広まっていけば嬉しいですよ。

**終わりに、ひと言お願いします！**

**北村** 毎年、当センターの夏祭りに、ボッチャも含め

た障がい者スポーツの体験コーナーを行っております。センターの職員、利用者だけでなく、ご家族など身近な周りの人に楽しさが広まってほしいと思います。

**加藤** 本学では、パラスポーツサークルがあり、学生は障がい者スポーツ大会や練習会等に参加しています。本学で3月に企画していたボッチャ大会は中止となりましたが、機会を待って実現したいと思っています。



ランプ